

報告案件（5）平成30年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰候補団体の応募について

1 趣旨

豊田市公共交通会議は、これまでの各主体の取組が高く評価され、本年に中部運輸局管内（愛知、岐阜、三重、静岡、福井）から地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰の候補として推薦する2団体の1つとなっており、応募内容を報告する。

2 表彰制度の概要

制度の目的	地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図る。
開始年度	平成21年
選考基準	以下の基準を満たすものの中から、有識者で構成する委員会で選考し決定 (1) 住民、NPO、企業等の多様な主体が、地域公共交通の取組に参画 (2) 地域の実情に合った創意工夫が凝らされていること (3) 事業の今後の自立性・継続性が見込まれていること

3 表彰実績

表彰年	受賞団体	住所
平成29年	金川町・田園町住民コミュニティバス運営協議会	福島県会津若松市
	おらが湊鉄道応援団、湊鉄道対策協議会	茨城県ひたちなか市
	えちぜん鉄道活性化連携協議会	福井市
	兵庫県宍粟市、(株)ウエスト神姫、篠陽タクシー(有)	宍粟市、姫路市
平成28年	陣川あさひ町会、函館バス(株)、北海道函館市	函館市
	弘南鉄道大鰐線存続戦略協議会	青森県弘前市
	「ぐるっと生瀬」運行協議会	兵庫県西宮市
	加西市公共交通活性化協議会	兵庫県加西市
平成27年	玉野市地域公共交通会議	岡山県玉野市
	帯広市地域公共交通活性化協議会	帯広市
	千葉県市原市	市原市
	富山市都市交通協議会	富山市
	岐阜市総合交通協議会	岐阜市
明石市地域公共交通会議	兵庫県明石市	

4 応募内容（調整中）

豊田市公共交通会議（愛知県豊田市）

多核ネットワーク型都市を目指し、基幹交通（鉄道・基幹バス）と住民参画による地域バスとにより公共交通ネットワークを構築するとともに、多様な利用促進策及びコミュニティバスの生産性向上策を展開し、地域交通を活性化。

（取組の概要）

1. 多様な主体の実質的参画

- (1) 地域、市、運行事業者の共働によるバス運行
- 基幹バス(とよたおいでんバス)は市と事業者が共働(計画:市、運行:事業者)で運行。両者で意見交換をし、継続的な運行改善。
 - 地域バスは住民参画で運営、継続的な運行改善と利用促進策展開。

(2) 地域、企業など多様な主体の参画

- 企業と連携したTDM施策を展開し、エコ交通を推進。
- 住民共助で自家用車に乗せあいをする「あすけあいカー」実証実施。

2. 創意工夫

(1) 鉄道利用環境の整備(愛知環状鉄道)

- 都市部主要駅間を部分複線化し、朝夕通勤シャトルの運行を実施し、輸送力を向上
- 5駅にパークアンドライド駐車場を整備し、公共交通利用転換を誘導。

(2) バス利用促進策の展開

- ポータルサイト「みちなびとよた」運営及びバスロケーションシステム導入。
- 利便性の高い交通結節点整備(バス待合施設整備、バス発車時間待合ルール設定などを実施)。
- 基幹バス(とよたおいでんバス)への交通系共通ICカードの導入。

(3) 魅力あるモビリティの導入

- 燃料電池バスの路線運行実証を全国に先駆けて実施。
- 超小型電気自動車シェアリングシステムを公共交通に位置づけて展開。

3. 自立性・継続性

- 独自のバス評価システムを導入し、運行改善。
- 地域や企業により経費を一部負担し、バスの運行を維持。
- コミュニティバスでは全国初の宅配物の貨客混載の実施。

このブロックには、豊田市の公共交通ネットワークに関する図表と、具体的な取組の写真を掲載しています。

- 公共交通ネットワーク【概況(2014年)】**: 豊田市の公共交通ネットワークの概況を示す地図。
- とよたおいでんバス**: 基幹バスの運行状況に関する写真と説明。
- 水源東バス**: 地域バスの運行状況に関する写真と説明。
- とよたおいでんバスのあゆみ**: 2007年の開始から現在までのバス運行の発展を示す折線グラフ。
- 地域バスだより**: 地域バスの運行に関する写真と説明。
- 住民共助あすけあいカー**: 住民共助による自家用車に乗せあいの写真と説明。
- 燃料電池バス**: 燃料電池バスの運行実証に関する写真と説明。
- 超小型EVシェアリング**: 超小型電気自動車シェアリングに関する写真と説明。
- 貨客混載実証実験**: コミュニティバスでの貨客混載の実証実験に関する写真と説明。